

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成24年2月14日

【四半期会計期間】 第58期第3四半期(自 平成23年10月1日 至 平成23年12月31日)

【会社名】 日本瓦斯株式会社

【英訳名】 NIPPON GAS CO.,LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 和田 眞 治

【本店の所在の場所】 東京都中央区八丁堀2丁目10番7号

【電話番号】 03-3553-1281 (代表)

【事務連絡者氏名】 専務取締役管理本部長 中山 雄 樹

【最寄りの連絡場所】 東京都中央区八丁堀2丁目10番7号

【電話番号】 03-3553-1281 (代表)

【事務連絡者氏名】 専務取締役管理本部長 中山 雄 樹

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第57期 第3四半期 連結累計期間		第58期 第3四半期 連結累計期間		第57期	
		自 至	平成22年4月1日 平成22年12月31日	自 至	平成23年4月1日 平成23年12月31日	自 至	平成22年4月1日 平成23年3月31日
売上高	(百万円)		72,295		75,272		104,138
経常利益	(百万円)		1,897		2,161		6,091
四半期(当期)純利益	(百万円)		763		753		2,324
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)		727		583		2,749
純資産額	(百万円)		32,947		45,218		34,947
総資産額	(百万円)		109,134		116,417		111,390
1株当たり四半期(当期) 純利益金額	(円)		19.39		16.89		59.01
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)						
自己資本比率	(%)		19.9		28.9		20.9
営業活動による キャッシュ・フロー	(百万円)		6,419		6,629		13,046
投資活動による キャッシュ・フロー	(百万円)		7,076		8,822		9,715
財務活動による キャッシュ・フロー	(百万円)		2,893		5,820		5,004
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(百万円)		7,064		12,559		8,941

回次		第57期 第3四半期 連結会計期間		第58期 第3四半期 連結会計期間	
		自 至	平成22年10月1日 平成22年12月31日	自 至	平成23年10月1日 平成23年12月31日
1株当たり四半期純利益金額 又 は四半期純損失金額 ()	(円)		3.96		0.77

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

3. 第57期第3四半期連結累計期間の四半期包括利益の算定にあたり、「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号 平成22年6月30日)を適用し、遡及処理しております。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 業績の状況

エネルギー業界におきましては、原発事故を契機として、我が国のエネルギー計画について、原発依存からの脱却のための抜本的な見直しが必要との議論が広がり、コストの高い再生エネルギーの推進が叫ばれる一方、今後の基幹エネルギーとして、ガス体エネルギーの重要性が一層注目されております。

また、大規模集中型エネルギーシステムから分散型エネルギーシステムへの転換が重要課題となるなど、エネルギーシステムの在り方は、大きな分岐点を迎えております。

このような環境の下、当社グループは、引き続き直売分野での競争コスト創出を目途とする、抜本的な経営の効率化に取り組み、保安の確保と安定供給を前提とした顧客サービスの向上と顧客基盤の拡充に総力を挙げてまいりました。

また、当第3四半期連結会計期間において、当社グループは、国際的な金融機関JPモルガンの投資部門であるOEPとの資本業務提携契約に基づき、OEPを割当先とする第三者割当による新株式の発行並びに自己株式の処分を実施し、103億5千万円の資金を調達いたしました。調達資金は、国内外のエネルギー関連企業への投資資金に充当し、国内における収益基盤の拡大と海外での事業展開を進めております。海外での事業展開につきましては、既に経営参加しているオーストラリアの電力・都市ガス小売企業とアメリカの電力小売企業への追加投資とアジア・オセアニア地域において当社グループの持つ分散型エネルギーシステムのノウハウを活用することが可能なエネルギー関連企業に積極的な投資を行い、将来の収益基盤の確保をはかってまいります。

当第3四半期連結累計期間の売上高につきましては、震災の影響で業務用のガス販売量が減少したこと等により、ガスの総販売量は前年同四半期に比べ減少いたしました。当第3四半期連結累計期間末の当社グループのお客様数が前連結会計年度末に比べ38千戸増の975千戸となり、民生用のガス販売量が堅調に推移したことに加え、機器、受注工事他の売上が増加したこと等により、752億7千2百万円（前年同四半期比4.1%増）となりました。

一方、利益面につきましては、原料価格は前年同四半期に比べ高く推移いたしました。前連結会計年度から運用を開始した新物流システムによる物流コストの削減に加え、業務全般に及ぶ抜本的改革によりコスト全体の削減に努めました結果、営業利益は24億8千9百万円（前年同四半期比12.9%増）、経常利益は21億6千1百万円（同13.9%増）となりました。改正法人税法の公布に伴う繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率の見直しにより法人税等調整額が増加し、第3四半期純利益は7億5千3百万円（同1.3%減）となりました。

なお、当社グループの売上高及び利益面におきましては、性質上季節の変動が著しいガス事業の占めるウェイトが高いために、下期に偏る傾向にあります。

当第3四半期連結累計期間のセグメント別の概況は次のとおりであります。

[LPガス事業]

LPガス事業におきましては、業務用ガスの大幅な需要減により、総販売量は前年同四半期に比べ減少いたしました。民生用ガスの販売量がお客様の増加に伴い堅調に推移したことに加え、機器、受注工事他の売上が増加いたしましたため、当第3四半期連結累計期間の売上高は391億7千5百万円と前年同四半期に比べ11億5千3百万円（前年同四半期比3.0%増）の増収となり、セグメント利益（営業利益）は17億6千3百万円と前年同四半期に比べ3億4千3百万円（同24.2%増）の増益となりました。

[都市ガス事業]

当社の都市ガス子会社4社で構成される当事業におきましては、ガス販売量が、LPガス事業と同様の要因で前年同四半期に比べ減少いたしました。天然ガスの販売価格が原料費調整制度により前年同四半期に比べ高く推移したこと等により、当第3四半期連結累計期間の売上高は360億9千7百万円と前年同四半期に比べ18億2千4百万円（前年同四半期比5.3%増）の増収となり、セグメント利益（営業利益）は7億1千5百万円と前年同四半期に比べ4千3百万円（同6.5%増）の増益となりました。

(2) 財政状態の分析

資産

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ50億2千6百万円増加し、1,164億1千7百万円となりました。これは主に、新株式の発行並びに自己株式の処分により払込を受け、現金及び預金が増加したこと等によるものです。

負債

当第3四半期連結会計期間末における負債は、前連結会計年度末に比べ52億4千3百万円減少し、711億9千9百万円となりました。これは主に、返済が進んだことにより借入金が減少したこと等によるものです。

純資産

当第3四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末に比べ102億7千万円増加し、452億1千8百万円となりました。これは主に、新株式の発行並びに自己株式の処分により103億5千万円の払込を受けたこと等によるものです。

この結果、自己資本比率は、前連結会計年度末に比べ8.0ポイント向上し、28.9%となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況の分析

当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ、36億1千8百万円増加し125億5千9百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第3四半期連結累計期間の営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益21億6千4百万円、減価償却費66億2千8百万円等の収入要因が、法人税等の支払額24億4千3百万円等の支出要因に相殺され66億2千9百万円（前年同四半期に比べ2億9百万円収入が増加）の収入となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第3四半期連結累計期間の投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得による支出51億5千4百万円、投資有価証券の取得による支出32億6千7百万円等により88億2千2百万円（前年同四半期に比べ17億4千6百万円支出が増加）の支出となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第3四半期連結累計期間の財務活動によるキャッシュ・フローは、株式の発行による収入41億2千1百万円、自己株式の売却による収入62億9百万円等の収入要因が、借入金の純減少額37億1千9百万円等の支出要因に相殺され58億2千万円（前年同四半期は28億9千3百万円の支出）の収入となりました。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

なお、当社は財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針を定めており、その内容等（会社法施行規則第118条第3号に掲げる事項）は次のとおりです。

1. 基本方針

当社グループが企業価値を維持・向上するためには、当社の供給エリアである関東一円の一般家庭に、安全且つ安定的に、より安価にガス体エネルギーを供給し続けるとともに、その特性である快適性、経済性、省エネ性、環境性などを提供することが不可欠であると考えております。そのためには、消費者の生活を支えるライフライン・社会資本ともいふべき、ガス本支管等の既存設備の経年管理に、積極的且つ創造的な再投資に努めて参るとともに、緊急災害時に対応する基幹設計の更なる充実と、新たな供給システムの開発に積極的に取り組むなど、長期的な観点から財務及び事業の方針を決定し、消費者・地域社会をはじめとするステークホルダーズとの信頼関係を構築していかなければなりません。当社取締役会は、このような長期的な観点から当社の財務及び事業の方針を決定することを嫌い、当社がこれまで築き上げてきた地域社会や使用人、協力会社、金融機関等ステークホルダーズとの信頼関係を破壊し、当社グループの企業価値ひいては株主共同の利益を損なうおそれのある株式買付行為を行う者について、当社の方針の決定を支配する者として、適切ではないと考えております。

2. 基本方針実現のための取組み

当社は、上記基本方針を実現するための取組みとして、平成18年2月9日開催の取締役会により、企業価値向上プランを導入した後、平成18年6月9日、平成19年6月12日、平成21年6月8日に一部改正をし、平成21年6月26日開催の第55回定時株主総会において継続の承認を得ております。その概要は、以下の通りであります。同プランの全文は当社ホームページにおいて閲覧することができます。

(<http://www.nichigas.co.jp/ir/pdf/torikumi2010.pdf>)

・「日本瓦斯グループの経営理念～持続的成長を目指して～」の策定

当社は、中長期的観点から持続的成長を可能とするため、当社経営陣により、あらかじめ経営理念(日本瓦斯グループの経営理念～持続的成長を目指して～)を策定・公表した上で経営を行い、株主の皆様に業績評価をして頂くことが、当社経営陣の経営責任の明確化に資すると考え、当社グループの現在の状況を踏まえ、次のとおりグループ経営理念を策定します。

地域社会に対する貢献

企業の持続的成長を目指す

人的資源の尊重

・経営評価委員会の設置

当社は、上記経営理念の公表と合わせて、企業価値及び株主共同の利益の維持・向上に向けた取り組みについて、外部から客観的な意見を求めてガバナンス機能を強化するため、当社取締役会から独立した外部有識者をメンバーとする経営評価委員会を設置しました。現在委員には、井手秀樹慶應義塾大学商学部教授を委員長として、山田剛志成城大学大学院法学研究科教授、能勢元東京フィナンシャル会計事務所代表が就任しております。

・企業価値向上プランの導入

1. 企業価値向上プラン導入の目的-企業価値・株主共同の利益の維持・向上

当社取締役会は、特定の株主グループによる当社発行済株式（当社保有自己株式を除く）の株券等保有割合が20%以上となる買付提案（以下、単に「買付提案」といいます。）又は買付行為が、当社の企業価値・株主共同の利益を毀損する買収類型に該当するか否かを判断するためのルール（以下、「企業価値向上プラン」といいます。）を策定し、企業価値・株主共同の利益を毀損する買収類型に該当すると判断した場合には、企業価値及び株主共同の利益の維持・向上という目的のために、対抗措置として取得条項付新株予約権の無償割当てを行うことといたしました。

2. 当社株式の買付提案及び買付行為への対応方針

(企業価値向上プランの内容)

(1) 企業価値向上プランの対象となる買付者

企業価値向上プランの対象となる買付者は、特定の株主グループによる当社発行済株式（当社保有自己株式を除く）の株券等保有割合が20%以上となる買付提案又は買付行為を行おうとする者（以下、「買付者」といいます。）です。

(2) 必要情報提供手続

買付者には、当社発行済株式（当社保有自己株式を除く）の株券保有割合が20%以上となる買付行為（以下、「大規模買付行為」といいます。）を行う前に、当社取締役会に対して、買付提案を行っていただきます。当社取締役会は、買付者の買付提案が具体的に当社の企業価値及び株主共同の利益を毀損するものではないかを判断するために、買付者からの買付提案を受けた後、5営業日以内に、必要情報の提供を要請します。買付者から十分な情報提供がなされた場合又は複数回にわたる情報要請にかかわらず買付者から十分な情報提供がなされなかった場合、当社取締役会は受領した情報を、直ちに独立の外部専門家3名により構成され、別に設置される経営評価委員会に上程します。

(3) 経営評価委員会及び取締役会による検討手続

当社取締役会から必要情報の上程を受けた経営評価委員会は、外部専門家の助言を受ける等しながら、買付提案の検討・分析を行い、当社取締役会が買付者から受領した必要情報の上程を受けてから60営業日以内（但し、経営評価委員会は、必要がある場合には、この期間を30営業日に限り延長することができるものとします。）に、当社取締役会に対して、対抗措置の発動の要否について勧告します。

(4) 経営評価委員会による検討・分析事項

経営評価委員会は、以下の事項の該当性につき検討・分析し、いずれかに該当すると判断した場合には、当社取締役会に対して対抗措置の発動を勧告し、いずれにも該当しないと判断した場合には、対抗措置の不発動を勧告します。

買付者が当社取締役会より複数回にわたる情報提供の要請を受けたにもかかわらず、株主が当社株式を買付者に譲渡するか、保持し続けるかを判断するために十分な情報を提供しない場合であり、且つ当該時点で対抗措置を発動しない場合には当社の企業価値及び株主共同の利益を毀損するおそれがあると認められる。

濫用的買収者である(以下のいずれかに該当すること)

- () 買付者が、真に当社の経営に参加する意思がないにもかかわらず、ただ株価をつり上げて高値で株式を当社又は当社の関係者に引き取らせる目的で、当社株式の買付提案又は買付行為を行っている（いわゆるグリーンメイラーである）ことが客観的かつ合理的に認められる。
- () 買付者が、当社の経営を一時的に支配して当社の事業経営上必要な知的財産権、ノウハウ、企業秘密情報、主要取引先や顧客等を当該買付者や、そのグループ会社等に移譲させる等、いわゆる焦土化経営を行う目的で、当社株式の買付提案又は買付行為を行っていることが客観的且つ合理的に認められる。
- () 買付者が、当社の経営を支配した後に、当社の資産を当該買付者やそのグループ会社等の債務の担保や弁済原資として流用する予定で当社株式の買付提案又は買付行為を行っていることが客観的且つ合理的に認められる。
- () 買付者が、当社の経営を一時的に支配して当社の事業に当面関係していない不動産、有価証券等、高額資産等を売却等処分させ、その処分利益をもって一時的な高配当をさせるか、あるいは一時的な高配当による株価の急上昇の機会を狙って株式の高値売り抜けをする目的で、当社株式の買付提案又は買付行為を行っている場合等、当社を食い物にしようとしていることが客観的且つ合理的に認められる。
- () 買付者が、二段階での強圧的な買付（最初の買付条件を有利に、二段階目の買付条件を不利に（あるいは明確にしないで）設定するような行為のことをいい、最初の買付行為に応じなければ不利益を被るような状況を作り出し、株主の皆様売り急がせる買付手法のことをいいます。）を予定して、当社株式の買付提案又は買付行為を行っていることが、客観的且つ合理的に認められる。

買付後の経営計画又は事業計画が著しく不合理であり、買付者による買付後に当社の企業価値及び株主共同の利益が毀損されることが明らかである。

(現経営陣の経営計画又は事業計画が、経営評価委員会に上程された場合で) 買付後の経営計画又は事業計画が、現経営陣の経営計画又は事業計画（買付者による買付提案に対する代替案を含みます。）と比較して、明白に劣っており、買付者による、買付後に当社の企業価値及び株主共同の利益が毀損されることが明らかである。

(5)経営評価委員会による勧告の尊重

当社取締役会は、経営評価委員会の勧告を受け、対抗措置発動の要否を決定します。その判断の際には、経営評価委員会による勧告を最大限尊重いたします。

(6)取締役会の検討内容の開示

当社取締役会は、対抗措置を発動する旨の決議をした場合、速やかに、当該決議をした旨及びその理由を開示いたします。また、対抗措置を発動しない旨の決議をした場合でも、買付提案が当社取締役会の経営計画又は事業計画（買付者による買付提案に対する代替案を含みます。）に劣り、当社の企業価値及び株主共同の利益の維持・向上に反すると判断した場合には、その旨の意見表明を行い、当社取締役会の経営計画又は事業計画（買付者による買付提案に対する代替案を含みます。）を適切な時期に開示し、株主の皆様のご判断を仰ぎます。

3.対抗措置の内容

対抗措置として割当てられる取得条項付新株予約権の概要は、以下の通りです。

(1)新株予約権の割当対象となる株主及びその条件

当社取締役会が対抗措置を発動する旨の決議をした後に開催される取締役会の決議で、決定される割当期日（以下、「割当期日」といいます。）時点における最終の株主名簿又は実質株主名簿に記載又は記録された株主に対し、その保有株式1株につき1個の割合で新株予約権を割当てる。

(2)取得条項

新株予約権の割当てに関する決議を行う取締役会において、決定される取得条項成就日が到来することを条件として、当社はこの新株予約権を取得し、代わりに当社普通株式3株を限度として交付する。

(3)取得条件

買付者及び買付者を含む特定の株主グループに属するものが、新株予約権の割当を受けた場合には、当該新株予約権者である買付者及び買付者を含む特定の株主グループに属する者から、その保有する新株予約権を取得し、代わりに当社普通株式を交付することを行わない。

3.基本方針実現のための取組みについての取締役会の判断及びその理由

上記取組みのうち、「『日本瓦斯グループの経営理念～持続的成長を目指して～』の策定」及び「経営評価委員会の設置」については、当社事業の特性に基づいて、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を維持・向上することを直接の目的として行われるものであるから、基本方針に沿い、当社の株主共同の利益に合致するものであり、当社会社役員の地位の維持を目的とするものではございません。また、「企業価値向上プランの導入」につきましても、以下の理由から、基本方針に沿い、当社の株主共同の利益に合致するものであり、当社会社役員の地位の維持を目的とするものではございません。

(1)買収防衛策に関する指針の要件を完全に充足していること

本プランは、経済産業省および法務省が平成17年5月27日に発表した企業価値・株主共同の利益の確保又は向上のための買収防衛策に関する指針の定める三原則を充足しており、平成20年6月30日に企業価値研究会が公表した「近時の諸環境の変化を踏まえた買収防衛策の在り方」に適合しております。

(2)株主意思を重視するものであること

本ルールは、平成18年6月29日開催の第52回定時株主総会において、定款変更議案及び本プランの継続をご了承いただいたことによって、株主の皆様のご信任を得ております。また、今後も、取締役選任議案（企業価値向上プランの継続を支持する取締役の選任をお諮りします。）として、株主の皆様のご意思を反映させていくことを予定しております。

(3)独立性の高い社外者の判断の重視と情報開示

経営評価委員会は、有事にも当社取締役会の恣意的行動を厳しく監視するとともに、その判断の概要については、当社ホームページにおいて株主の皆様にご開示されており、本プランの透明な運営が行われる仕組みが確保されています。

(4)合理的な客観的要件の設定

本ルールは、合理的かつ客観的な要件が充足されなければ発動されないように設定されており、当社取締役会による恣意的な発動を防止するための仕組みを確保しているものといえます。

(5)デットハンド型やスローハンド型買収防衛策ではないこと

本プランは、今後も株主総会において、取締役選任議案を通じて株主の皆様のご意思を反映させていくことを予定しておりますので、株主総会決議により廃止できない又は時間を要する、いわゆるデットハンド型・スローハンド型の買収防衛策ではございません。

(5)研究開発活動

当第3四半期連結累計期間の研究開発費の総額は、29百万円であります。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	179,846,100
計	179,846,100

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成23年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成24年2月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	48,561,525	48,561,525	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は100株であります。
計	48,561,525	48,561,525		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成23年10月18日 (注)	3,600	48,561	2,070	7,070	812	5,198

(注) 第三者割当 発行価格 1,150円 資本組入額 2,070百万円
 割当先 OEP NG LLC

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成23年9月30日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成23年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 (自己保有株式) 5,403,500 (相互保有株式) 309,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 39,208,600	392,086	
単元未満株式	普通株式 40,425		1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	44,961,525		
総株主の議決権		392,086	

(注)平成23年10月18日付の第三者割当による新株式の発行及び自己株式の処分により、「完全議決権株式(自己株式等)」の「株式数(自己保有株式)」は5,400,000株上記より減少し、「完全議決権株式(その他)」の「株式数」は9,000,000株、「議決権の数」は90,000個いずれも上記より増加し、「発行済株式総数」の「株式数」が3,600,000株上記より増加しております。

【自己株式等】

平成23年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 日本 瓦斯(株)	東京都中央区八丁堀2 10 7	5,403,500		5,403,500	12.01
(相互保有株式) 日本 瓦斯運輸整備(株)	東京都西東京市芝久保町 1 23 1	309,000		309,000	0.69
計		5,712,500		5,712,500	12.70

(注)平成23年10月18日付の第三者割当による自己株式の処分により、「(自己保有株式)日本瓦斯(株)」の「自己名義所有株式数」及び「所有株式数の合計」はいずれも5,400,000株上記より減少しております。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、四半期連結財務諸表規則第5条の2第3項により、四半期連結キャッシュ・フロー計算書を作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(平成23年10月1日から平成23年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成23年4月1日から平成23年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、協立監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	8,955	12,969
受取手形及び売掛金	10,340	8,010
商品及び製品	4,841	4,787
仕掛品	25	14
原材料及び貯蔵品	81	88
繰延税金資産	802	599
その他	479	3,266
貸倒引当金	175	248
流動資産合計	25,350	29,488
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	7,861	7,752
機械装置及び運搬具(純額)	39,803	37,865
工具、器具及び備品(純額)	440	407
土地	20,061	20,299
リース資産(純額)	618	938
建設仮勘定	665	1,079
有形固定資産合計	69,450	68,343
無形固定資産		
のれん	6,706	6,169
その他	634	666
無形固定資産合計	7,341	6,835
投資その他の資産		
投資有価証券	3,413	6,277
その他	5,928	5,913
貸倒引当金	785	782
投資その他の資産合計	8,556	11,409
固定資産合計	85,347	86,588
繰延資産	692	341
資産合計	111,390	116,417

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	12,694	12,920 ₂
短期借入金	12,224	11,545
未払法人税等	1,949	291
賞与引当金	384	146
その他	3,575	3,480
流動負債合計	30,828	28,385
固定負債		
長期借入金	40,661	37,621
退職給付引当金	2,065	2,066
役員退職慰労引当金	1,040	960
ガスホルダー修繕引当金	264	235
その他	1,582	1,930
固定負債合計	45,614	42,814
負債合計	76,443	71,199
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,000	7,070
資本剰余金	4,386	5,198
利益剰余金	21,366	21,611
自己株式	7,527	59
株主資本合計	23,225	33,820
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	97	140
その他の包括利益累計額合計	97	140
少数株主持分	11,624	11,538
純資産合計	34,947	45,218
負債純資産合計	111,390	116,417

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
売上高	72,295	75,272
売上原価	41,609	44,630
売上総利益	30,685	30,642
販売費及び一般管理費	28,480	28,153
営業利益	2,205	2,489
営業外収益		
受取利息	3	3
受取配当金	66	75
不動産賃貸料	32	31
持分法による投資利益	22	29
保険配当金	28	2
その他	147	118
営業外収益合計	301	260
営業外費用		
支払利息	607	560
その他	1	27
営業外費用合計	609	588
経常利益	1,897	2,161
特別利益		
固定資産売却益	14	20
投資有価証券売却益	0	34
負ののれん発生益	-	37
特別利益合計	15	92
特別損失		
固定資産売却損	6	-
固定資産除却損	30	57
投資有価証券評価損	-	31
その他	2	0
特別損失合計	39	89
税金等調整前四半期純利益	1,874	2,164
法人税、住民税及び事業税	716	793
法人税等調整額	279	542
法人税等合計	995	1,335
少数株主損益調整前四半期純利益	878	828
少数株主利益	115	75
四半期純利益	763	753

【四半期連結包括利益計算書】
 【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	878	828
その他の包括利益		
其他有価証券評価差額金	150	245
その他の包括利益合計	150	245
四半期包括利益	727	583
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	618	514
少数株主に係る四半期包括利益	109	68

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	1,874	2,164
減価償却費	6,439	6,628
繰延資産償却額	687	351
のれん償却額	629	585
貸倒引当金の増減額（は減少）	10	70
退職給付引当金の増減額（は減少）	62	1
役員退職慰労引当金の増減額（は減少）	52	79
受取利息及び受取配当金	70	78
支払利息	607	560
為替差損益（は益）	-	7
持分法による投資損益（は益）	22	29
投資有価証券評価損益（は益）	-	31
有形固定資産除却損	30	57
売上債権の増減額（は増加）	1,966	2,329
たな卸資産の増減額（は増加）	182	56
仕入債務の増減額（は減少）	1,457	226
未払消費税等の増減額（は減少）	137	114
前受金の増減額（は減少）	44	107
確定拠出年金移行時未払金の増減額（は減少）	232	222
その他	1,393	2,887
小計	8,715	9,552
利息及び配当金の受取額	70	80
利息の支払額	608	559
法人税等の支払額	1,758	2,443
営業活動によるキャッシュ・フロー	6,419	6,629
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	12	407
定期預金の払戻による収入	11	12
有形固定資産の取得による支出	7,132	5,154
有形固定資産の売却による収入	226	133
のれんの取得による支出	64	46
投資有価証券の取得による支出	9	3,267
貸付けによる支出	9	14
貸付金の回収による収入	37	52
その他	123	129
投資活動によるキャッシュ・フロー	7,076	8,822

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	10,951	2,470
短期借入金の返済による支出	9,600	2,570
長期借入れによる収入	7,848	5,540
長期借入金の返済による支出	11,376	9,159
株式の発行による収入	-	4,121
自己株式の取得による支出	0	0
自己株式の売却による収入	0	6,209
配当金の支払額	508	508
少数株主への配当金の支払額	115	111
その他	91	170
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,893	5,820
現金及び現金同等物に係る換算差額	-	7
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	3,549	3,618
現金及び現金同等物の期首残高	10,614	8,941
現金及び現金同等物の四半期末残高	7,064	12,559

【連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更】

該当事項はありません。

【会計方針の変更等】

該当事項はありません。

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

該当事項はありません。

【追加情報】

当第3四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)	
第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。	

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

前連結会計年度 (平成23年3月31日)		当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)	
1	保証債務 金融機関からの借入金に対して次のとおり保証を行っております。 連結子会社である東彩ガス㈱が債務保証している社会福祉法人大幸会従業員(住宅資金) 500百万円	1	保証債務 金融機関からの借入金に対して次のとおり保証を行っております。 連結子会社である東彩ガス㈱が債務保証している社会福祉法人大幸会従業員(住宅資金) 250百万円
	12 "		11 "
	合計 512百万円		合計 261百万円
		2	四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。なお、当第3四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の満期手形が、当第3四半期連結会計期間末残高に含まれております。 受取手形 139百万円 支払手形 238百万円

(四半期連結損益計算書関係)

前第3四半期連結累計期間(自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)及び当第3四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)

当社グループの売上高及び利益面におきましては、性質上季節的変動が著しいガス事業の占めるウェイトが高いために、下期に偏る傾向にあります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前第3四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)		当第3四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)	
現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成22年12月31日現在)		現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成23年12月31日現在)	
現金及び預金	7,078百万円	現金及び預金	12,969百万円
預入期間が3か月超の定期預金	14 "	預入期間が3か月超の定期預金	409 "
現金及び現金同等物	7,064百万円	現金及び現金同等物	12,559百万円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成22年6月25日 定時株主総会	普通株式	257	6.50	平成22年3月31日	平成22年6月28日	利益剰余金
平成22年10月29日 取締役会	普通株式	257	6.50	平成22年9月30日	平成22年11月19日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動
該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年6月29日 定時株主総会	普通株式	257	6.50	平成23年3月31日	平成23年6月30日	利益剰余金
平成23年10月31日 取締役会	普通株式	257	6.50	平成23年9月30日	平成23年11月21日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

当社は平成23年10月18日を払込期日とする第三者割当による新株式の発行及び自己株式の処分を実施いたしました。この結果、当第3四半期連結会計期間において資本金が2,070百万円、資本準備金が812百万円それぞれ増加し、当第3四半期連結会計期間末において資本金が7,070百万円、資本準備金が5,198百万円となっております。

また、自己株式の処分により6,210百万円が払込まれております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注 1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
	L P ガス事業	都市ガス事業			
売上高					
外部顧客への売上高	38,022	34,272	72,295	-	72,295
セグメント間の内部売上高 又は振替高	8,660	616	9,277	9,277	-
計	46,683	34,889	81,572	9,277	72,295
セグメント利益	1,420	672	2,092	113	2,205

(注) 1. セグメント利益の調整額 113百万円は、セグメント間取引の消去等が含まれております。
2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注 1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
	L P ガス事業	都市ガス事業			
売上高					
外部顧客への売上高	39,175	36,097	75,272	-	75,272
セグメント間の内部売上高 又は振替高	8,700	251	8,951	8,951	-
計	47,875	36,348	84,224	8,951	75,272
セグメント利益	1,763	715	2,479	9	2,489

(注) 1. セグメント利益の調整額 9百万円には、セグメント間取引の消去等が含まれております。
2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額	19円39銭	16円89銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	763	753
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	763	753
普通株式の期中平均株式数(千株)	39,386	44,605

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【その他】

第58期(平成23年4月1日から平成24年3月31日まで)中間配当について、平成23年10月31日開催の取締役会において、平成23年9月30日の株主名簿に記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

配当金の総額・・・・・・・・・・・・・・・・・・257百万円

1株当たりの金額・・・・・・・・・・・・・・・・6円50銭

支払請求の効力発生日及び支払開始日・・・・平成23年11月21日

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成24年2月10日

日本瓦斯株式会社
取締役会 御中

協立監査法人

代表社員
業務執行社員 公認会計士 朝 田 潔 印

業務執行社員 公認会計士 作 花 弘 美 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている日本瓦斯株式会社の平成23年4月1日から平成24年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成23年10月1日から平成23年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成23年4月1日から平成23年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、日本瓦斯株式会社及び連結子会社の平成23年12月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。
以 上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。